

日本語科目における言語行動目標の設定

—— Can-do-statements を利用して ——

島田 めぐみ・谷部 弘子・斎藤 純男

留学生センター*

(2006年9月29日受理)

1. はじめに

東京学芸大学留学生センター（以下、GISEC）が開講する日本語科目は、2005年度の時点で、初級レベルから上級レベルまでの5段階（初級前半、初級後半、中級前半、中級後半、上級）、さらに技能別に設定されていた。受講者は、学部留学生のほか、研究留学生、教員研修留学生、日本語日本文化研修留学生、特別聴講留学生などであるが、海外協定校の増加に伴い、日本語科目受講者の5割近くを協定校からの交換留学生が占めるようになった。交換留学生は、東京学芸大学で受講した科目を出身大学の単位として認定を受けることが可能である。しかし、海外協定校における日本語科目のレベル設定は、GISECの日本語レベル設定とは異なる場合が多い。そのため、本国において上級で学んだ学生が、東京学芸大学では中級に配置されることもある。レベル設定が初級、中級、上級という抽象的なものではなく、具体的な言語行動で示されれば、GISECにおける各日本語科目のレベルが明確に理解され、単位認定もたやすくなると考えられる。そこで、Can-do-statements（以下、Cds）調査を行い、各レベルについて、具体的な言語行動で示すこととした。

Cds調査とは、学習者に具体的な言語行動場面を記述した短い文章を提示して、それに対して「できる」「できない」を自己評価により回答させる質問紙調査である。言語テストにおいては、ある得点が結果として得られるが、そこで問題になるのは、その得点が何を意味しているかという点である。近年、テストには得点の解釈基準が必要であるという認識が定着しつつあり、その基準作成にCdsが利用されることが多い。本稿では、Cds調査の結果に基づき、GISECにおけるプレースメントテストの解釈基準、すなわち各レベルの解釈基準の記述を行い、同時にGISECの日本語科目のレベル設定が有効であるかを検討する。

2. 先行研究

2.1 Cdsの開発と外国語能力試験

大規模なCds調査としては、TOEICに関するものとALTE¹が行ったものがあげられる。TOEICに関しては、1999年に「TOEIC Can-Do Guide」が公開された（TOEIC Service International and The Chauncey Group International 1999）。これは、TOEICの得点を、その得点をとった受験者が英語を用いて遂行できる項目課題に対応づけることによって、具体的かつ詳細な情報としてTOEIC利用者である企業に提供することを目的として開発された。開発にあたって、企業活動上重要だと思われる英語運用力を特定した上で、「できる」または「できない」で回答する75項目から構成されるCds調査票を用いている。

また、ALTEでは、欧州における複数の外国語能力試験の能力水準の比較を容易にする手段として、Cdsを開発した（Council of Europe 2001）。Cdsは、400ほどの項目から構成されており、3つのエリア、社会と観光、仕事、学習に分類できる。約10,000名のCdsの回答と当該受験者の言語テストの結果とが得られ、その結果、Cdsを媒介として異なる外国

* 東京学芸大学（184-8501 小金井市貫井北町4-1-1）

語能力試験による認定水準などの測定結果が対比できるようになり、試験認定証を参考にする企業などの雇用者にとって、認定証の解釈が容易になった。

2.2 日本語Cdsの開発

日本語に関しては、日本語能力試験（以下、JLPT）の妥当性検討の一環として、1997年にJLPT受験者を対象としたCds調査が始められた（日本語教育学会試験分析委員会1999）。JLPT受験者を対象に数回のCds調査が行われ、信頼性の高いCdsが開発されたが、JLPTが能力水準の異なる4つの級を設定して個々に測定しているため、受験者の能力の範囲が制限され、Cdsの結果とJLPT得点との間の相関が低い水準にとどまった（三枝2004）。これに対して、大学のプレースメントテスト受験者を対象に実施したところ、Cdsとプレースメントテストとの間の相関は、R大学の場合は0.760、T大学の場合は0.794と高い値を示した（三枝2004）。島田他（2006）では、再度Cds調査の結果とJLPT及び日本語プレースメントテストの各結果との関連性について検討した結果、JLPTの結果を反映する尺度としての有効性が確認された。すなわち、JLPTがCds調査結果と低い相関にあるのは、JLPTが級別テストであるため、受験者層の能力幅が狭いことに起因するということが確認できた。そこで、Cds各項目の言語行動について、JLPTの成績別受験者群がそれぞれどの程度達成できるかを示し、1級及び2級合格者の日本語能力の典型的なパターンについて考察している。たとえば、「聞く」技能について、次の4段階を設定し、2級合格者で（1）の段階、1級合格者で（3）の段階であるとしている。

- （1）値段や天気など内容が予想しやすい発話がわかる段階
- （2）回答者に向けられた身近な内容の発話がわかる段階
- （3）待遇表現や日本人同士の自然な会話がわかり、授業など長い発話も要点や流れが理解できる段階
- （4）ラジオ、討論など抽象的で複雑な内容の発話や、予期しない内容の発話が理解できる段階

三枝（2004）で開発された日本語Cdsは、調査対象者を日本の大学で学んでいる学習者、及びその前段階の者に設定し、調査項目の目標使用言語の領域を「大学生の生活」としている。ただし学術分野のみに絞るのではなく、大学外での生活に関する技能も含められている。作成にあたっては、先行研究における行動記述の構成概念を参考とするとともに、外国人の日本語使用行動に関する先行研究、大学や日本語学校で使用している教科書の内容などを検討し、173項目の行動記述を抽出している。その中から、（1）大学生が日常生活あるいは大学での勉学に必要なとされる行動、（2）回答者が実際に経験していると想定できる行動、（3）具体的で現実的な場面における行動、これらの条件にあうものが選定され、最終的に60項目（読む、書く、聞く、話す各15項目）が選ばれた。各項目に対する回答は、「1. 全然できない」から「7. 問題なくできる」までの7段階評定尺度の該当する箇所をチェックすることによって得られる。

3. GISECの日本語科目

GISECが全学留学生を対象に開講している日本語科目をまとめたものが表1である。表1のとおり、レベル設定は、レベルⅢからレベルⅦの5段階である。レベルⅢから始まっている理由は、日本語予備教育の初級前半クラスをレベルⅠ、初級後半クラスをレベルⅡに位置づけているためである。レベルⅤからⅦまでは、学習者数が多いため、2クラスずつ開講している。また、レベルⅢは技能別ではなく、総合的な日本語科目を3クラス開講している。受講者のレベル判定は、プレースメントテストにより行われる。プレースメントテストは、聴解、語彙、文法、読解、文字の下位類からなる。会話のクラスは聴解、語彙、文法の合計点から、作文と読解のクラスは、語彙、文法、読解、文字の合計点から、文法のクラスは文法の得点、漢字のクラスは文字の得点から、それぞれクラス配置が決定される。

表1 2005年度GISEC日本語科目

レベル	科目					
Ⅲ	総合					
Ⅳ	会話	講読	作文	文法	漢字	発音
Ⅴ	会話	講読	作文	文法	漢字	
Ⅵ	会話	講読	作文	文法	漢字	
Ⅶ	会話	講読	作文	文法	漢字	
	会話	講読	作文	文法	漢字	

4. Cds調査項目の再検討

2003年にGISECにて実施したCds調査では、JLPT 1級および2級レベル用に開発したCds調査用紙(60項目)を使用した(三枝2004)。しかし、GISECには、2級レベルに満たない学習者も多く、すべてのレベルをカバーすることはできなかった。そこで、低いレベルの学生が実際に遭遇すると考えられる23項目を加えた。以下に、各技能の追加項目例を示す。

追加項目例

「読む」: カタカナで書かれた国名, 都市名が読めますか。

「書く」: 自分の名前がカタカナで書けますか。

「話す」: 名前, 出身, 専門など, 簡単な自己紹介ができますか。

「聞く」: 日本語のクラスで宿題について説明されて, 理解できますか。

また, 以下の2項目を削除した。前者は, 対象者がJLPTを受験した経験のない者が大半であるため, 後者は, 島田他(2006)の結果, 日本語能力以外の知識が深くかかわっていることが明らかになったためである。

- ・日本語能力試験の申込書が書けますか。
- ・ワープロ・コンピュータを利用して日本語で文を書くことができますか。

上記の変更がなされ, 81項目(読む: 22項目, 書く: 20項目, 話す: 21項目, 聞く: 18項目)からなる調査用紙が完成し, 英語版, 韓国語版, 中国語版を作成した。

各項目に対する回答は, 「1. 全然できない」から「7. 問題なくできる」までの7段階評定尺度の該当する箇所をチェックすることによって得る。

5. 調査について

5.1 調査の時期・協力者

調査は, 2005年10月のプレースメントテスト実施直後に行った。Cds調査の有効回答者数は, プレースメントテスト受験者156名のうち, 132名であった。日本語レベルⅢからⅦまでの身分別回答者数は表2のとおりである。高いレベルほど人数が多いことがわかる。

表2 各レベルの身分別回答者数

	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	合計
学部生	0	0	0	0	2	2
大学院生	0	0	0	0	2	2
研究生	0	3	10	10	11	34
日研生 ²	0	1	2	9	12	24
教研生 ³	0	2	1	1	3	7
特聴生 ⁴	0	6	6	8	20	40
短プロ ⁵	5	5	5	6	1	22
その他 ⁶	0	1	0	0	0	1
合計	5	18	24	34	51	132

5.2 基本統計量

Cds調査の平均値をレベルごとにまとめたものが表3である。各項目, 7段階で回答しているため, 全項目(81項目)の最高点は567点, 最低点は81点となる。「読む」は22点から154点, 「書く」は20点から140点, 「話す」は21点から147点, 「聞く」は18点から126点の間の点数となる。表3を見ると, いずれの技能においても, レベル5と6の間の差が小さいことがわかる。

表3 Cds調査の平均値

	読む	書く	話す	聞く	合計
項目数	22	20	21	18	81
レベルⅢ	39.60	46.80	48.60	29.20	164.20
レベルⅣ	76.89	74.17	85.11	66.44	298.28
レベルⅤ	102.42	92.08	107.56	82.66	382.79
レベルⅥ	108.74	95.03	107.63	85.21	397.29
レベルⅦ	124.37	112.98	124.72	102.36	458.73
全体	106.67	96.45	107.36	84.98	395.46

5.3 プレースメントテストとCds調査の結果の関連性

プレースメントテストとCds調査の関連性を検討するために、プレースメントテスト下位類とCds調査各技能間の相関を算出した(表4)。プレースメントテスト合計点とCds合計点との相関は0.733であり、高い相関関係にあると言える。なお、プレースメントテストの項目数は、聴解22項目、語彙20項目、文法25項目、読解10項目、文字20項目、合計97項目である。

表4 プレースメントテストとCds調査の相関

	読む計	書く計	話す計	聞く計	Cds合計
PT聴解計	0.601	0.572	0.538	0.613	0.620
PT語彙計	0.683	0.627	0.639	0.659	0.697
PT文法計	0.640	0.642	0.574	0.620	0.660
PT読解計	0.680	0.639	0.613	0.637	0.686
PT文字計	0.718	0.676	0.634	0.676	0.723
PT合計	0.717	0.686	0.646	0.696	0.733

5.4 レベル設定の検討

GISECで学ぶ日本語学習者は、日本語レベルの高い者が多く、V以上のレベルは、わずかの得点差でボーダーラインがひかれている。このレベル分けが有効であるか、Cdsの結果から検討する。表5は、Cds「話す」各項目の平均値と標準偏差をレベルごとに示したものである。各項目の内容は、以下に示した。表5の項目は、全受験者のデータの平均値をもとに、もっとも得点の高い項目から順番に提示されている。すなわち、項目63「生年月日を日本語で言えますか」がもっとも得点が高く、項目49「自分の国の社会制度(教育制度、政治制度など)を説明することができますか」がもっとも得点が低いことを示す。各項目とも、レベルが高くなるにつれて平均値が高くなるのがわかるが、VレベルとVIレベルの差は非常に小さい。「話す」においてVIレベルよりもVレベルのほうが平均値が高いという、逆転現象が観察された項目は11項目ある(下線部)。他の技能の結果では、VレベルとVIレベルの間で平均値において逆転現象が観察された項目は、「読む」が2項目、「書く」が4項目、「聞く」が3項目であった。

「話す」項目

- 63 生年月日を日本語で言えますか。
- 62 昨日何を食べたか日本語で言うことができますか。
- 58 名前、出身地、専門など、簡単な自己紹介ができますか。
- 61 スーパーでほしいものがどこにあるか聞くことができますか。
- 59 自分の国の家から日本までどのように来たか説明できますか。
- 60 自分の国と日本の違いをひとつ、例をあげて説明できますか。
- 51 相手の言いたいことがわからない時、聞き返すことができますか。
- 47 日常の挨拶や、挨拶をした後の簡単な会話ができますか
- 53 自分の家族・仕事・勉強・国などについての質問に答えられますか。
- 44 授業で先生に質問ができますか。
- 54 電車で忘れ物をした時、自分の持ち物などを詳しく駅員に説明できますか。

- 48 デパートや商店で、自分の買いたいものについて、希望や条件などを詳しく説明することができますか。
 56 相手の気持ちを傷つけずに、断ることができますか。
 43 医者に病気の症状を説明することができますか。
 55 アルバイトの面接の時に、自分の能力などについての質問に適切に答えられますか。
 46 自分の意見や考えを日本人の知り合いに十分に説明することができますか。
 45 専門の授業で皆の前で自分の意見が発表できますか。
 57 専門の授業で日本人と話し合いができますか。
 50 電話で申し込み、注文、問い合わせなどができますか。
 52 パーティーや公式の席で挨拶やスピーチをすることができますか。
 49 自分の国の社会制度（教育制度、政治制度など）を説明することができますか。

表5 「話す」各項目のレベル別基本統計量

	レベルⅢ		レベルⅣ		レベルⅤ		レベルⅥ		レベルⅦ	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
63	4.200	2.588	5.667	1.495	6.438	1.076	6.658	0.847	6.974	0.160
62	4.000	2.550	5.500	1.618	<u>6.281</u>	1.143	<u>6.263</u>	1.107	6.615	0.747
58	3.600	2.302	5.722	1.708	<u>6.156</u>	1.081	<u>6.132</u>	1.143	6.513	0.823
61	3.600	2.793	5.278	1.638	6.094	1.201	6.132	1.143	6.692	0.694
59	1.800	0.837	4.778	1.700	6.156	1.139	6.158	1.220	6.462	1.047
60	1.200	0.447	4.333	2.029	<u>6.031</u>	1.177	<u>5.921</u>	1.194	6.487	0.885
51	3.600	2.702	4.556	1.688	<u>5.813</u>	0.998	<u>5.737</u>	1.223	6.308	0.893
47	3.000	2.345	4.500	1.339	<u>5.625</u>	1.289	<u>5.447</u>	1.267	6.308	0.832
53	2.200	2.683	4.389	1.461	<u>5.625</u>	1.264	<u>5.421</u>	1.308	6.000	1.277
44	2.200	1.304	3.944	1.259	<u>5.250</u>	1.218	<u>5.237</u>	1.173	6.077	0.870
54	1.600	1.342	3.778	1.665	5.281	1.508	5.289	1.250	6.077	1.036
48	2.000	1.732	4.111	1.605	5.000	1.459	5.105	1.158	6.103	1.046
56	3.400	3.286	3.556	1.423	<u>4.625</u>	1.362	<u>4.447</u>	1.224	5.385	1.310
43	2.000	1.414	3.611	1.539	4.313	1.469	4.579	1.130	5.615	1.184
55	1.000	0.000	3.278	1.602	4.313	1.693	4.395	1.306	5.615	1.184
46	1.400	0.548	2.944	1.211	4.344	1.359	4.447	1.108	5.538	1.335
45	1.400	0.548	3.167	1.043	<u>4.500</u>	1.566	<u>4.211</u>	1.069	5.231	1.327
57	1.200	0.447	3.167	1.618	<u>4.219</u>	1.313	<u>4.184</u>	1.333	5.359	1.460
50	1.600	0.894	3.056	1.434	3.719	1.631	4.132	1.070	5.385	1.388
52	2.400	2.608	3.000	1.372	<u>3.938</u>	1.501	<u>3.789</u>	1.212	4.949	1.486
49	1.200	0.447	2.778	1.263	3.844	1.483	3.947	1.064	5.026	1.181

以上の結果およびCds合計点の平均値結果（表3）から、Cds調査において、レベルⅤとⅥの間に明らかな差のないことが明らかになった。レベルⅤ以上の受講者が多く、プレースメントテストにおけるわずかな差で境界線をひいているのが現状であるが、プレースメントテストとの相関が高いCds調査の結果でレベル間の識別が困難な設定は改善が必要である。そこで、レベルⅤとⅥで1つのレベルを構成した場合の結果を見てみる。表6に示すとおり、レベルⅤとⅥの合併レベルは、レベルⅣとⅦのほぼ中間であることがわかる。以下では、レベルⅤとⅥを合併し、全4レベルで検討する。

表6 レベル編成改正後のレベル別Cds平均値

	読む	書く	話す	聞く	合計
項目数	22	20	21	18	81
レベルⅢ	39.60	46.80	48.60	29.20	164.20
レベルⅣ	76.89	74.17	85.11	66.44	302.61
レベルⅤ & Ⅵ	106.12	93.81	107.60	84.04	391.29
レベルⅦ	124.37	112.98	124.72	102.36	463.65
全体	106.67	96.45	107.36	84.98	395.46

5.5 各レベルにおけるCds一覧

各レベルの学習者が具体的にどのような言語行動がどの程度実現できるかを検討する。VレベルとVIレベルは合併したレベルとして考える。

Cds各項目に関し、各群の平均値を算出し、それを下記基準に照らし合わせ、各項目の言語行動がどの程度できるかをまとめたものが表7である。「できる」と「ある程度できる」、「ある程度できる」と「できない」、それぞれの境界線をどこにするかという判断は難しいが、ここでは5.5以上を「できる」とし、3.5未満を「できない」と設定した。なお、表7の項目は、技能ごとに全体のデータにおいて平均値の高いものから順に並べてある。表7では、各レベルにおいて「できる」と判断された項目は濃い網かけ、「ある程度できる」と判断された項目は薄い網かけで示した。




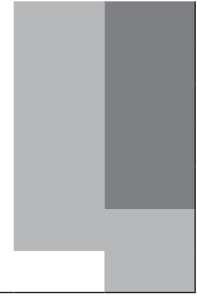
平均値5.5以上	「できる」	
平均値3.5以上5.5未満	「ある程度できる」	
平均値3.5未満	「できない」	

表7 Cds各項目のレベル別結果一覧

読む	III	IV	V & VI	VII
18 「東京学芸大学」が読めますか。	Dark	Dark	Dark	Dark
16 カタカナで書かれた国名、都市名が読めますか。	Dark	Dark	Dark	Dark
21 スーパーの売り場標示を読んでわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
22 大学キャンパスの案内板を読んでわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
17 日本語で書かれた授業名がわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
20 銀行や郵便局で、窓口の標示を読んでわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
19 日本語のウェブページを見て、求めるページに到達できますか。	White	Dark	Dark	Dark
8 電車やバスなどの車内の広告がわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
6 駅や旅行会社においてあるちらしを読んでわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
2 学内の掲示板のお知らせ・ポスター等の印刷物を読んでわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
3 学校の規則を読んでわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
14 学校・区役所(市役所)などからの通知(お知らせ)がわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
12 ガス・水道・電気の明細書をみて必要なことがわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
4 図書館の本棚にある本の背表紙を見て、必要な本を探することができますか。	White	Dark	Dark	Dark
15 就職情報(求人広告・アルバイト情報誌など)を読んでわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
10 掲示板や黒板などに手書きで書かれたものが読んでわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
9 病院で診察を受ける前の質問票を読んでわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
13 パソコンや機械の使い方の説明書(マニュアル)がわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
7 勉強に必要な本や論文を読んでわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
11 新聞の社会面(事件・事故などの記事)を読んでわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
5 小説を読んでわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
1 新聞の社説を読んでわかりますか。	White	Dark	Dark	Dark
書く	III	IV	V & VI	VII
36 自分の名前がカタカナで書けますか。	Dark	Dark	Dark	Dark
38 大学の名前(東京学芸大学)を漢字で書けますか。	Dark	Dark	Dark	Dark
37 日本の住所を漢字で書けますか。	Dark	Dark	Dark	Dark
39 自分の専門を日本語で書けますか。	Dark	Dark	Dark	Dark
41 簡単な自己紹介文が書けますか。	Dark	Dark	Dark	Dark
40 先生に授業を休むことを伝える電子メールまたはメモを書くことができますか。	Dark	Dark	Dark	Dark
42 旅行でしたこと、見たこと、食べたものなどについて作文を書くことができますか。	Dark	Dark	Dark	Dark
25 封筒やはがきの住所が正しい書き方で書けますか。	Dark	Dark	Dark	Dark

28	日本語で日記が書けますか。				
23	日本語で履歴書が書けますか。				
32	電話の伝言のメモを日本語で書くことができますか。				
27	図書館や学校の事務の書類が書けますか。				
33	自分の考えや計画をまとめて、レポートにすることができますか。				
30	授業・講義などで、日本語でメモがとれますか。				
31	お礼や挨拶の手紙が書けますか。				
26	会合やパーティーの案内状が書けますか。				
35	自分の国の経済や社会事情などについて文章が書けますか。				
34	サークルやイベントのちらしやパンフレットを作ることができますか。				
29	公的機関(学校や役所)に資料を請求するための文が書けますか。				
24	論文などの要約を書くことができますか。				
話す		III	IV	V & VI	VII
63	生年月日を日本語で言えますか。				
62	昨日、何を食べたか日本語で言うことができますか。				
58	名前、出身地、専門など、簡単な自己紹介ができますか。				
61	スーパーでほしいものがどこにあるか聞くことができますか。				
59	相手の言いたいことがわからない時、聞き返すことができますか。				
60	自分の国の家から日本までどのように来たか説明できますか。				
51	自分の国と日本の違いをひとつ、例をあげて説明できますか。				
47	日常の挨拶や、挨拶をした後の簡単な会話ができますか。				
53	自分の家族・仕事・勉強・国などについての質問に答えられますか。				
44	授業で先生に質問ができますか。				
54	電車で忘れ物をした時、自分の持ち物などを詳しく駅員に説明できますか。				
48	デパートや商店で、自分の買いたいものについて、希望や条件などを詳しく説明することができますか。				
56	相手の気持ちを傷つけずに、断ることができますか。				
43	医者に病気の症状を説明することができますか。				
55	アルバイトの面接の時に、自分の能力などについての質問に適切に答えられますか。				
46	自分の意見や考えを日本人の知り合いに十分に説明することができますか。				
45	専門の授業で皆の前で自分の意見が発表できますか。				
57	専門の授業で日本人と話し合いができますか。				
50	電話で申し込み、注文、問い合わせなどができますか。				
52	パーティーや公式の席で挨拶やスピーチをすることができますか。				
49	自分の国の社会制度(教育制度、政治制度など)を説明することができますか。				
聞く		III	IV	V & VI	VII
70	買い物の時、値段を言われてすぐわかりますか。				
80	他の人の自己紹介を聞いて、理解できますか。				
68	道をたずねて、その答えがわかりますか。				
77	自分の頼んだことを、相手が引き受けてくれたか、本当は相手が断っているのかわかりますか。				
79	日本語のクラスで宿題について説明されて、理解できますか。				
75	サービス業(デパート、ホテルなど)の人に丁寧な話をされて、理解できますか。				
73	電車・デパートなどのアナウンス(放送)がわかりますか。				
65	郵便局・銀行の窓口での説明がわかりますか。				
64	テレビのドラマがわかりますか。				
74	親しい人同士がくれた日本語で話しているのを聞いてわかりますか。				
78	知らない人から電話がかかってきた時、その人の用件が、すぐにわかりますか。				

- 66 ラジオの天気予報がわかりますか。
- 81 病気の時、医者の指示がわかりますか。
- 72 学校職員の事務連絡を聞いてわかりますか。
- 69 授業・講演などを聞いて、全体の流れがわかりますか。
- 76 ラジオを聞いて、どんなトピックについて話しているかわかりますか。
- 67 ゼミや公開討論の議論がわかりますか。
- 71 政治についてのラジオのニュースがわかりますか。



5.6 各レベルの目標基準

表7にCds各項目のレベル別結果一覧を示したが、この表から各レベルの目標とする言語行動基準について考察する。目標とする基準は、現状で「ある程度できる」(平均値3.5以上5.5未満)と判断された項目から判断することにするが、レベルⅢについては、現状ではほとんどの項目で3.5未満の「できない」であるため、「ある程度できる」ではなく「できない」項目のうち比較的難易度の低い項目を基準として考える。実際、レベルⅢの学習者は日本語学習経験のない者が多く、「できない」項目が目標基準となるのは妥当だと考えられる。

「読む」については、表7の結果から、各レベル次のように目標基準を設定できる。レベルⅢは「身の回りの日常的な語、短文が読めるようになる」(項目39, 41)、レベルⅣは「日常的で長くない文章が読めるようになる」(項目40, 42)、レベルⅤ&Ⅵは「具体的で、ある程度の長さの文章が読めるようになる」(項目9, 13)、レベルⅦは「複雑で抽象的なもの、専門的なものが読めるようになる」(項目5, 1)ということがそれぞれ目標として設定できる。

「書く」については、表7の結果から、各レベル次のように目標基準を設定できる。レベルⅢは「具体的で短い文章が書けるようになる」(項目18, 16)、レベルⅣは「具体的で、ある程度まとまりのある文章が書けるようになる」(項目21, 22)、レベルⅤ&Ⅵは「自分の意見を述べたり、待遇表現が使えるようになる」(項目33, 31)、レベルⅦは「複雑で抽象的なもの、専門的なものが書けるようになる」(項目35, 24)ということがそれぞれ目標として設定できる。

「話す」については、表7の結果から、各レベル次のように目標基準を設定できる。レベルⅢは「自己に関することなど、具体的で日常的なことが話せるようになる」(項目62, 58)、レベルⅣは「具体的なことが説明できるようになる」(項目51, 53)、レベルⅤ&Ⅵは「自分の考えを述べることができるようになる」(項目55, 46)、レベルⅦは「複雑で、抽象的なことが話せる」(項目57, 49)ということがそれぞれ目標として設定できる。

表8 各レベルにおける言語行動目標

レベル	技能	目標
Ⅲ	読む	身の回りの日常的な語、短文が読めるようになる
	書く	具体的で短い文章が書けるようになる
	話す	自己に関することなど、具体的で日常的なことが話せるようになる
	聞く	具体的な短い談話が理解できるようになる
Ⅳ	読む	日常的で長くない文章が読めるようになる
	書く	具体的で、ある程度まとまりのある文章が書けるようになる
	話す	具体的なことが説明できるようになる
	聞く	日常的で具体的な談話が理解できるようになる
Ⅴ&Ⅵ	読む	具体的で、ある程度の長さの文章が読めるようになる
	書く	自分の意見を述べたり、待遇表現が使えるようになる
	話す	自分の考えを述べることができるようになる
	聞く	具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる
Ⅶ	読む	複雑で抽象的なもの、専門的なものが読めるようになる
	書く	複雑で抽象的なもの、専門的なものが書けるようになる
	話す	複雑で、抽象的なことが話せるようになる
	聞く	まとまった内容の抽象的な談話、専門的な談話が理解できるようになる

「聞く」については、表7の結果から、各レベル次のように設定できる。レベルⅢは「具体的な短い談話が理解できるようになる」(項目80, 68)、レベルⅣは「日常的で具体的な談話が理解できるようになる」(項目79, 65)、レベルⅤ&Ⅵは「具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる」(項目66, 69)、レベルⅦは「まとまった内容の抽象的な談話、専門的な談話が理解できるようになる」(項目67, 71)ということがそれぞれ目標として設定できる。

上記の各レベルにおける4技能の目標をまとめたものが表8である。

6. 考察

Cds調査を利用することにより、GISECの日本語科目受講者がどのような言語行動がどの程度実行できるかという具体的な学習者像、および目標とする水準が明らかになった。このことにより、次のような利点が生じると考えられる。

(1) 海外協定校の日本語教員、留学希望者に対し、GISECの日本語科目に関する、より具体的な情報を提供できる。

東京学芸大学では海外協定校が増え、それに伴い、交換留学生数も増加している。これらの留学生が東京学芸大学で学んだ科目は、送り出し校での単位として認定されている。しかし、海外での初級、中級、上級等のレベル設定は、日本国内での設定とは異なる場合が少なくない。初級、中級、上級という抽象的なレベル設定よりも、Cds一覧が提示されることにより、より適切な科目への単位認定が行われるようになるであろう。また、来日前の学生にとって、早い時点で学習計画が立てられるであろう。

(2) GISECの日本語教員に対し、有益な情報を提供できる。

Cdsのような具体的な言語行動が提供されることにより、授業内容、目標などが立てやすくなるであろう。特に、2005年度まではレベルⅤとⅥの差が小さく、授業内容の難易度が逆転していた可能性もある。Cdsを利用した見直しにより、非常勤講師を含む教員に対し、明確な目標レベルを提示することができる。

(3) 受講者に対し、明確な目標レベルを提示できる。

単に、初級、中級、上級という抽象的なレベルではなく、具体的な言語行動が目標として明示されることにより、学習者自身が自己の日本語能力を意識化できるようになると考えられる。

ヨーロッパにおいては、Cdsは異なる言語やテスト間の共通の尺度として利用され、日本国内においては、大規模テストの得点解釈に利用され始めているが、日本語教育機関においての本格的な活用はほとんど行われておらず、本調査の試みはCdsの新たな利用法を提案するものとして意義ある研究だと言える。さらに、海外協定校における日本語科目との共通尺度として利用するためには、海外協定校の協力を得、協定校におけるCds調査を実施することが望まれる。協定校における調査が実現すると、協定校にとっては単位互換の際に有益な情報が得られることになるであろうし、GISECにとっては来日前の学習者レベルの把握などが可能となるであろう。東京学芸大学には30を越す海外協定校があるため、留学生数が多い協定校から徐々に調査を実現していきたい。

注

- 1 The Association of Language Testers in Europe (欧州言語テスト協会) の略。
- 2 日本語日本文化研修留学生 (1年のプログラム) を指す。
- 3 教員研修留学生 (1年半のプログラム) を指す。
- 4 特別聴講留学生 (海外協定校からの短期留学生) を指す。
- 5 短期留学プログラム留学生 (英語によるプログラムの学生) を指す。
- 6 その他の1名は、外国人研究員である。

付記

本研究は、2005年度東京学芸大学重点研究費の助成を受け、行われたものである。

参考文献

- 伊東祐郎 (2006) 「日本語能力 “Can-do” 記述作成の試み—テスト得点の妥当化をめざして—」『高見澤孟先生古希記念論文集』, 35-47
- 三枝令子 (2004) 『日本語 Can-do-statements 尺度の開発 研究成果報告書』(科学研究費補助金 基盤研究 (B1) 課題番号 13480068)
- 島田めぐみ, 青木惣一, 浅見かおり, 伊東祐郎, 三枝令子, 孫媛, 野口裕之 (2003) 「日本語教育機関における Can-do-statements 調査の活用方法」『2003年度日本語教育学会秋季大会予稿集』日本語教育学会, 119-124
- 島田めぐみ, 三枝令子, 野口裕之 (2006) 「日本語 Can-do-statements を利用した言語行動記述の試み—日本語能力試験受験者を対象として—」『世界の日本語教育』16号, 75-88
- 日本語教育学会試験分析委員会 (1999) 『Can-do-statements 調査報告』国際交流基金
- Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge University Press (吉島茂・大橋理枝ほか訳編 (2005) 『外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社)
- TOEIC Service International and The Chauncey Group International (1988) *TOEIC Can-Do Guide*, Chauncey Group

日本語科目における言語行動目標の設定

— Can-do-statements を利用して —

Trial of Communicative Language Activities Description for Japanese Language Classes

島田 めぐみ・谷部 弘子・斎藤 純男

Megumi SHIMADA, Hiroko YABE, Yoshio SAITÔ

留学生センター*

要 旨

東京学芸大学留学生センターが開講する日本語科目に関して、レベル設定が有効であるかを検討し、各レベルの解釈基準を記述するために、日本語プレースメントテスト受講者を対象にCan-do-statements調査を実施した。Can-do-statements調査は81項目の言語行動について、1から7までの7段階評定尺度にて学習者が自己評定するものである。Can-do-statements調査の結果、各レベル、各技能の科目について、「複雑で抽象的なもの、専門的なものが読めるようになる」(上級、講読)のような言語行動目標を設定することができた。各レベルが目標とする水準を言語行動で示すことにより、次の利点が生じると考えられる。1) 海外協定校の日本語教員、留学希望者に対し、東京学芸大学留学生センターの日本語科目に関する、より具体的な情報を提供できる。2) GISECの日本語教員に対し、有益な情報を提供できる。3) 受講者にとって、明確な目標レベルが提示できる。

キーワード: プレースメントテスト, 言語行動目標, Can-do-statements, 日本語科目, レベル設定

* Tokyo Gakugei University (4-1-1 Nukui-kita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501, Japan)